

から、學校や幼稚園の往返は勿論のこと、道を歩くに道草を食つて、側見をして歩いたりせぬ様、殊に、東京の様な所では、電車や馬車に氣を付けて歩く様に、家庭の方でも學校幼稚園でもかねて、誠めて置くことが大切なことであります。

貞一の日記

(承前) (明治廿六年五月)  
(拔萃) (卅一日生男兒)

その母

七月廿六日 昨日の様に、庭に出て、ポチに繪本を見せ、今日は問ひにして、猫どれ、モンキーどれなどいふ、ポチは知らぬ顔して、其所にうづくまる、オツキ〜といつて立たせて答へさせようとする。

何故か、同じ言葉を重ぬる時は、後の頭吾を省く文法を、貞一ひとり定め居るもをかし例へば

ゴメン略(ゴ)メン、カメ、チク略(チ)ク(蚊ガサスト) カミ略(カ)ミ(噛ム)「コノ」といふ辭を覺えたり、

アリメ、コワ〜(蟻コワイ) ホーセンカナといふ、

マウ(馬上)サンとツナグ(物を繋ぐ意)といふ事を覺えたり、

七月廿八日 母と水遊びして居りし時、父も傍に来て、石鹼をとかして、管で泡をふくらせとばして見せしに、こわがりて、母にすがりつく、それでも面白いと見え、もつと〜と催促す、夜おそく、隣家の中村さんへ、人たづね来て、おこさん〜喜んでございますといふをさへ、おこさん〜びん〜とまねす。

七月廿九日 安田さんの机の上に、菊の花をいけ

たり、それをさして、ヤーチャン、イ、エといふ、安田さんがさわると否といひしを覺え居りしなり、母の髪を結ふ傍に遊んで居りしが、くせなをしの、金だらひを見て、カーサナイ、エといふ、前のと、同じ意味なるべし、下痢二回

七月卅日 ツラ、ホシ、ヨル、マツク、ネンネといふ、昨夜、星を見て後、ねむりし事をいふならん、

七月卅一日 今日も、二回ばかり、下痢せし故、父と小原先生の許に行く、

八月二日 朝食後吐く、下痢三回

母と小原先生に行く、牛乳を減すべしと、命ぜらる、

朝 一〇〇瓦 おやつ一〇〇瓦

晝夕なし 粥も魚もすつと減す

八月三日 朝の中は、元氣悪しかりしも、午飯前には、元氣よくなりて遊ぶ、

便通一回(不消化)

八月四日 きれくながら、君が代を、初から終

まで唱ふ、

コレといふて、指す事を覺えたり、

横になつて、外をながめ、アツカ、テンキ、と

いふ、アメヤンダといひしは、二三日前の事なりき、

便通一回(少し柔し)

八月五日 元氣はよろしきも、顔色は悪し、父と

玉翠館へ寫眞うつしに行く、二度も、三度も、

とられし故、終にはオシッコといひ出す、

然しこれは、止めさせやうとする方便なりき、

夜眠る時も、全じ手段にて蚊帳の外に出しても

らはんとす、

便通一回（硬く肛門より少しく出血）

八月六日 ガラスの切口の、青きを見て、蚊帳ア

ヲといふ、かやの様に青しといふ意味ならん、

今日より獨りにて、ヒを持つて粥を喰べる、

八月七日 母此の二三日 氣分勝れず、横になり

居りしに、カーチャン、キー〜ワライといふ、

一昨日母か云ひしを、覺え居りしなり、

モーチ、カヒ〜といふ、二三日前、牛乳の配

達おそかりし故、もらひに出かけし事を思ひ出

したるなり、

電車の玩具をもつて、チン〜ゴ〜、ゴケ

ンチヨ〜といふ、便通二回

八月八日 小原先生より、牛乳を四〇〇瓦に増せ

と仰せらる、

少しく元氣悪し、

八月十一日 母と幸田様へ遊びに行き、二階の、

梯子を登り降りしてよろこぶ、

両方、二つ、イツシヨなどいふ事を覺ゆ、數の

考ふこりしならん、

子供らのはなし

何れも幼稚園の子供、可愛い盛り、の四つから五つ

六つ位までの男の子や女の子やが、先生をつかま

へての、家であつたこととしたことのお話、中には

想像で造り出して、よい加減のことをいつて居る

のもあらうし、別にこれといふ節もないのではあ

るが、集めて見れば、さて彼等の思つて居ること、

して居ること、さては家庭の風なども見えつるま

ゝに、かくはしるしぬ。子供は、東京の中流以下、

まづは下層の上なるものなり。